

トとして登場し、しかしついにはこの二者が一体化して中心部分をなす最終案が形成されていくプロセス、一方で明らかにエンゲルマンによって当初描かれていた古典主義的な装飾が剥ぎ取られ、縦長の垂直性を意識した窓のエレベーションが整えられ、ロース風の外観における立体構成が同時に進行していく様子が記述されている。

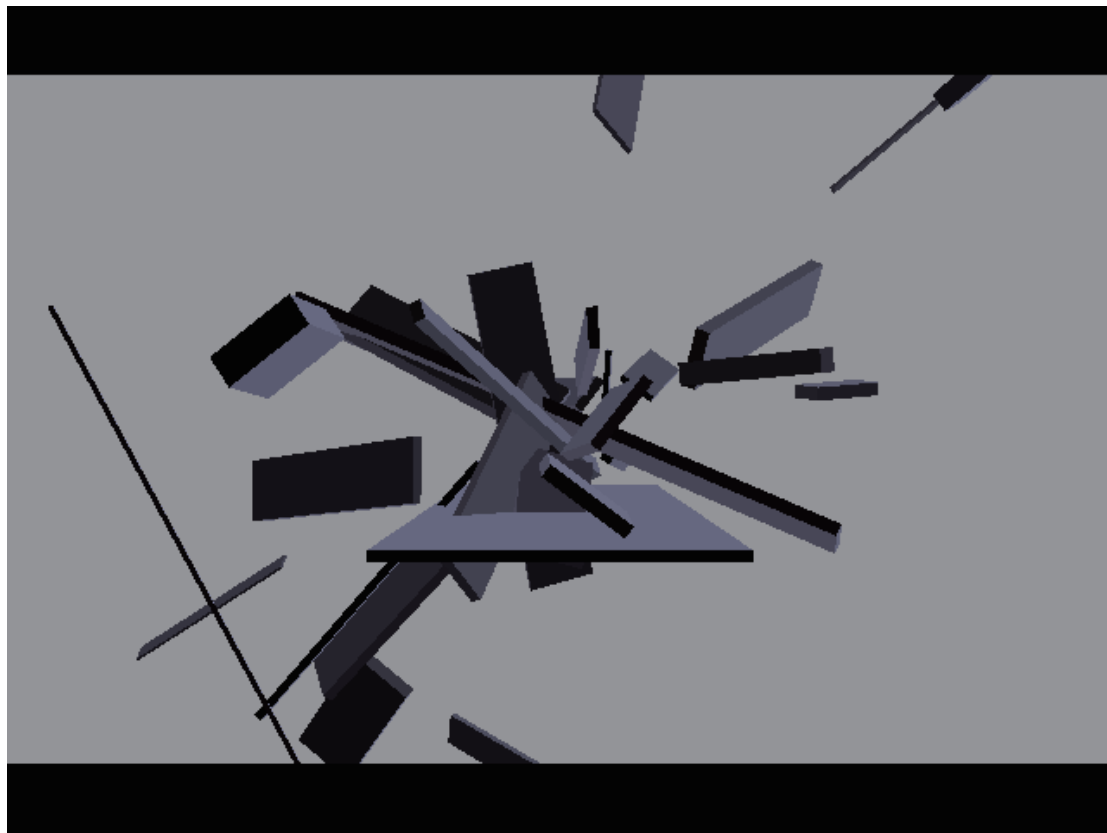


図2) キャプション（必ず記入してください）

3) 目的

哲学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインが設計に携わり、ウィーンに1928年に建設されたストーンボロー邸に関しては、ベルンハルト・ライトナーによる1976年から始まる継続的な研究*1)を始めとして、ギュンター・ゲバウアー等のグループによる実測調査の記録、パウル・ヴェイデフルトによる設計プロセスの分析、すなわち建築家エンゲルマンや当時の設計プロセスにかかわる周辺の状況に関する研究*3)の成果が充実している。

本論では、ホールを中心とした部屋の配置、それらの関係のあり方に関して考察をおこなう。

註

- 1) Bernhard Leitner, "Das Wittgenstein Haus", 2000
- 2) G.Gebauer, "Wien Kundmannngasse 19", 1982
- 3) P. Weideveld, "Ludwig Wittgenstein, Architekt", 1993

メインタイトルを記入してください。／サブタイトルがあればここに記入してください。